

はしがき

「人生100年時代」といわれる今日、私たちの日常生活は、社会保障制度と密接に結びついている。病気やケガをすれば、公的医療保険の被保険者証をもって、医療機関を受診する。社会で働くようになれば、失業時には雇用保険の給付があるし、労働災害にあったときには労災保険の給付がある。仕事から引退すれば、公的年金を受給できるし、介護が必要になれば、介護保険によるサービスを利用できる。社会福祉分野では、幼児期における保育所等の児童福祉、障害者の就労支援等の障害者福祉などがあり、児童手当や児童扶養手当という現金給付もある。さらに生活に困った際の生活保護などもある。

しかし、社会保障の範囲があまりにも広すぎて、個々の制度がよくわからないという声を多く耳にする。そこで、本書では、『よくわかる社会保障論』と題して、社会保障の目的や機能、構造、経済との関係などの総論的知識から、各論として、医療保険、年金保険、介護保険、労働保険、民間保険、生活保護と社会福祉、特論として、社会保障と住宅、人口問題に言及し、最後に、社会保障の歴史や各国の社会保障制度の概要について、わかりやすく解説している。

また、本書は、社会福祉士および精神保健福祉士（以下「社会福祉士等」という）専門職養成課程において、社会福祉士等の国家試験受験のための指定科目とされている「社会保障」の内容を網羅している。大学や短大、社会福祉士等指定養成施設等において、国家試験受験指定科目「社会保障」のテキストとして使用できる構成にしている。章末には、自習のための課題を掲載している。

極めて多岐にわたる社会保障制度を正しく理解することは、国家試験対策ばかりでなく、将来、福祉や医療現場で働くときに大いに役立つであろう。さらに、私たちが、長い人生を安心して過ごす上で、不可欠な知識を得ることになるだろう。本書が、社会保障について広く学ぼうとする皆様方の参考になれば、執筆者一同喜びに堪えないところである。

2021年3月

編者一同